

学術資料

Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッド テストおよび
ID NOW™ 新型コロナウイルス2019における
SARS-CoV-2 変異株の検出について

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の新たな変異株が確認されました。英国ではB.1.1.7 と呼ばれる変異株が懸念されています^{1, 2}。初期の報告によると、このウイルスは現在流行中の株よりも強い感染力を持つ可能性があります。南アフリカでは、B.1.1.7 とは別に、B.1.351 という変異株が現れました。ブラジルでは、P.1 と呼ばれる変異株が現れ、これは日本の空港で実施された定期検査で、ブラジルからの旅行者から最初に特定されました。またカリフォルニア州とハワイ州では、B.1.427と B.1.429 という懸念される変異株 (Variant of Concern: VOC) が報告されています。最近特定されている注目すべき変異株 (Variants of Interest : VOI) および調査中の変異株 (Variants Under Investigation : VUI) には、B.1.526 および B.1.525 (別名ニューヨーク変異株)、A.23.1 および B.1.324.1、E484K および P3 が含まれています。

これらの変異株のサンプルで試験ができるようになれば、アボットは迅速に対応し、弊社のCOVID-19 検査に対する影響の可能性について評価を実施する予定です。現在、SARS-CoV-2のこれらの変異株は、スパイク (S) タンパク質の RNA 配列に複数の突然変異があると定義されており、一部はヌクレオカプシド (N) タンパク質の RNA 配列に突然変異があるものもあります。

アボットは、ID NOW™ 新型コロナウイルス2019および Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッド テストの性能に影響を与える突然変異について、配列データベースを定期的にモニターしています。ID NOW™ 新型コロナウイルス2019 は、RNA 依存性 RNA ポリメラーゼ (RdRp) 遺伝子を検出するため、その領域/遺伝子以外の変異の影響を受けません。Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッド テストはヌクレオカプシド (N) タンパク質を検出するため、アボットは、in silico分析 (データベース上のゲノム配列解析) でこれらのタンパク質のアミノ酸の変化を評価し、報告された突然変異による性能への影響はないと判断しました。

アボットは SARS-CoV-2 変異株に関する世界的な状況を引き続きモニターする予定です。

<参照情報>

- 1) 米国疾患予防管理センター (CDC) ウェブサイト、2021年5月28日付、“Variants of the Virus”
<https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/transmission/variant.html>
- 2) Gov.UK ウェブサイト、2021年5月28日付、“Variants of concern or under investigation: data up to 19 May 2021”、<https://www.gov.uk/government/publications/covid-19-variants-genomically-confirmed-case-numbers/variants-distribution-of-cases-data>

<本情報に関するお問い合わせ先>

アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社
〒163-0807 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル7階
お客様相談室
フリーダイヤル：0120-1874-86
Eメール：japan.techsupport@abbott.com